

1881年のポグロム分析 (1)

黒川知文

序

19世紀後半のロシアにおいて、ユダヤ人による3つの特異な現象が見られる。それは、革命運動への積極的な参加、他国とりわけアメリカ合衆国への大移住、そしてシオニズム運動である。これらの現象をさらに詳しく調べると、ある1つの事件を契機にして、いずれも開始されたことがわかる。その事件とは1881年の南ウクライナに発生したロシア民衆によるユダヤ人迫害運動、すなわちポグロムである。

ポグロムによって、ユダヤ人のある者は、アメリカ合衆国などの外国に安住の地を得ようと移住し、また他の者は、故国イスラエルにユダヤ人による国家を樹立することこそ、迫害からの唯一の解決だと考え、シオニズム運動を展開した。さらに、ロシアに残存したユダヤ人のとりわけ青年層は、革命によって自由と権利を得ることこそ唯一の解決だとして革命運動へ積極的に参加したのであった。

このように、ロシアのユダヤ社会に対して変化を余儀なくさせたポグロムとは、いったいどのような事件であったのか、またポグロムに代表されるロシアにおける反ユダヤ主義は、どのように生じたのであろうか。帝政ロシアにおける反ユダヤ主義について考察することは、近代ロシアにおける「民族」の問題を解明する上でも、また革命以後も存続するユダヤ人問題を解明するためにも必要である。さらに、文化を異にする民族間の接触問題としても研究する意義があるといえよう。すなわち、この考察によって、離散したユダヤ人は、なぜ他民族によって迫害されたかという全世界的現象としてのユダヤ人問題の解明

の一助となるかもしれない。

解明の手段としてさしあたって、まずポグロムそのものについて詳しく分析する必要がある。

I 全体的状況

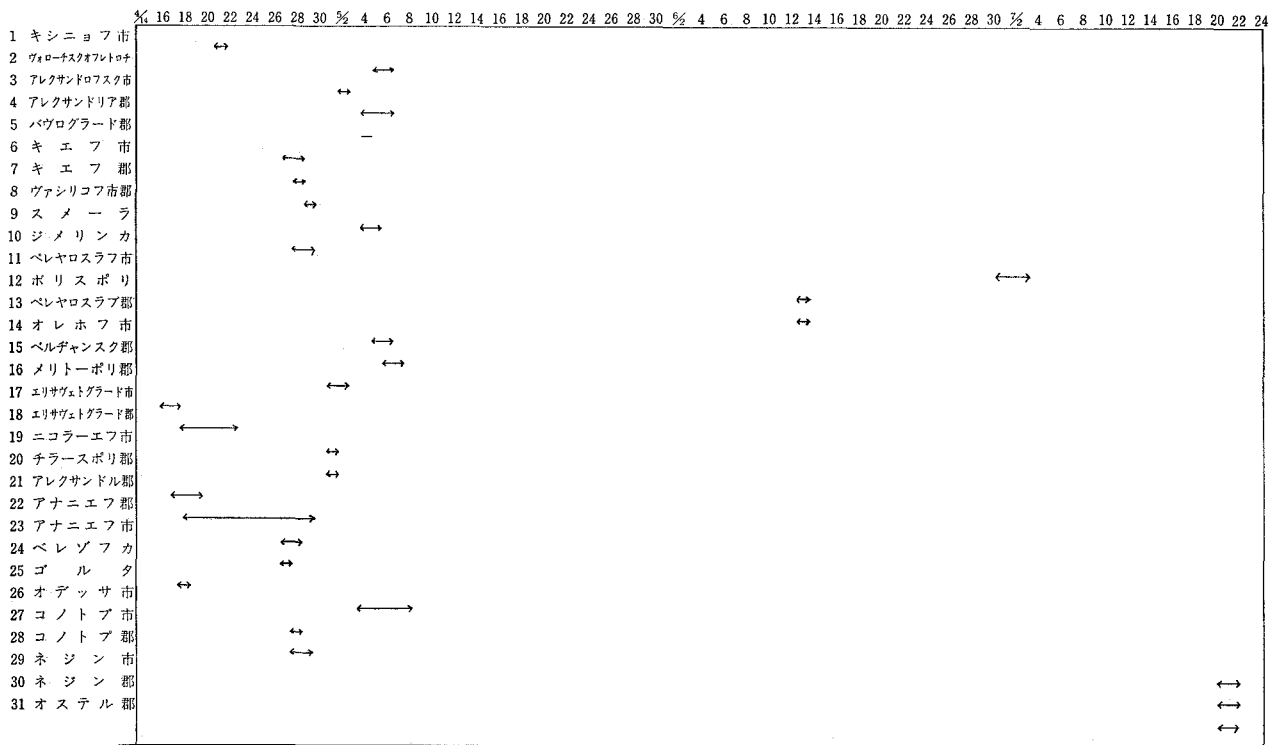
1881年のポグロムに関しては、革命後に出版された、クラスヌイ・アドモニ編集の『ロシアにおける反ユダヤポグロム史のための史料集 (Материалы для Истории Антиеврейских Погромов в России)』⁽¹⁾ に詳しく分析されている。この史料集は大きく2部から成っている。第1部は、ポグロムに関する地方政府の報告書であり、1881年5月15日から同年11月末までに集められたものである。ポグロム直後に集められた貴重な史料といえる。第2部は内務大臣であった П. И. クタイソフ伯の実地調査報告である。これはポグロムが発生した地方での会見記録、警察の調査記録、電報などから成っている。これらの貴重な記録によって、ポグロムの発生日と発生地、加害者、被害状況そして趨勢などから全体的状況をとらえたいと思う。(以下この史料集を『史料集』と表記する。)

1. 発生日

1881年のポグロムは、3月1日のアレクサンドルⅡ世暗殺事件の1か月半後に発生している。第1表は、その発生日を示す。郡と市に区分した場合、31箇所が発生したポグロムは、4月15日にエリサヴェトグラード市に始まり、アレクサンドル郡へ移り、5月8日までの約1か月間に、24箇所が発生したことになる。その後1か月を経て6月12日にベレヤロスラフ郡とポリスポリ市、6月30日にベレヤロスラフ市、1か月後にネジン市、ネジン郡、オステル郡に発生している。このように、初めの1か月でほとんどのポグロムが発生し、その後は単発的に限られた地方で発生したにすぎないといえる。

これらのポグロムには、同じ日に発生したものが少なくない。たとえば、4月17日にはエリサヴェトグラード郡とアナニエフ郡のゴルタ村、4月26日にはキエフ市、アナニエフ市、ベレソフカ小市⁽²⁾、5月1日にはアレクサンドロフ

第1表



スク市、メリトーポリ郡、ニコラーエフ市、チラーズポリ郡、さらに5月3日にはアレクサンドリア郡、バヴログラード郡、スメーラ小市、オデッサ市、5月4日には、ヴォローチスク・オクレトノスチ小市とオレホフ市でボグロムが発生している。また6月以後に発生したペレヤロスラフ郡とボリスポリ市も6月12日、ネジン市、ネジン郡とオステル郡も7月20日になっている。31箇所のうち20箇所、すなわち64%が同じ日に発生したことになる。

次に発生した期間を調べると、1日で終結したのが最も多く12箇所になる。それらはキシニョフ市、アレクサンドロフスク市、バヴログラード郡、キエフ郡、ヴァシリコフ市、ヴァシリコフ郡、ボリスポリ市、ペレヤロスラフ郡、ニコラーエフ市、チラーズポリ郡、ベレゾフカ小市、ゴルタ村、コノトブ市などである。2日間続いたのが次に多く8箇所にのぼる。それらは、キエフ市、スメーラ小市、ペレヤロスラフ郡、ベルジャンスク郡、エリサヴェトグラード市、アナニエフ市、コノトブ郡、ネジン市などである。3日で終結したのがヴォローチスク・オクレトノスチ小市、ジメリンカ小市、ペレヤロスラフ市の3箇所。4日間はアレクサンドリア郡。5日間はエリサヴェトグラード郡とオデッサ市。最も長期間発生したのはアナニエフ郡の12日間であった。これらから明らかのように、発生期間は郡部の方が都市部よりも長い。しかし郡部の場合、同一箇所の発生期間を示したわけではない。たとえば最も長期間発生したアナニエフ郡では、ロマノフカ小市、ガンドラブル村、ザヴァドフカ村、チェフツロヴォ村、シロチンカ村、ストルコバ村などでボグロムが発生しており、全箇所のボグロム終結までに12日間を要したことにすぎない。

これら一連のボグロムは、4月15日にエリサヴェトグラード市を起点として発生したがこの週はロシア正教の大祭である復活祭の週にあたる。1881年の復活祭は4月13日でありその後1週間が光明週間と呼ばれる復活祭の週であった。この週に、エリサヴェトグラード市、アレクサンドル郡、アナニエフ郡、ゴルタ村、エリサヴェトグラード郡、キシニョフ市でボグロムが発生している。

以上、発生日からわかることは、第一にボグロムのほとんどは、4月中旬から5月中旬までの1か月間に集中して発生しており、しかも同じ日に発生した

ものが多いこと、第二に、それらはいずれも1—2日で終結していること、第三に、起点となった初めの6箇所におけるポグロムは、復活祭の週に発生したこと、などである。

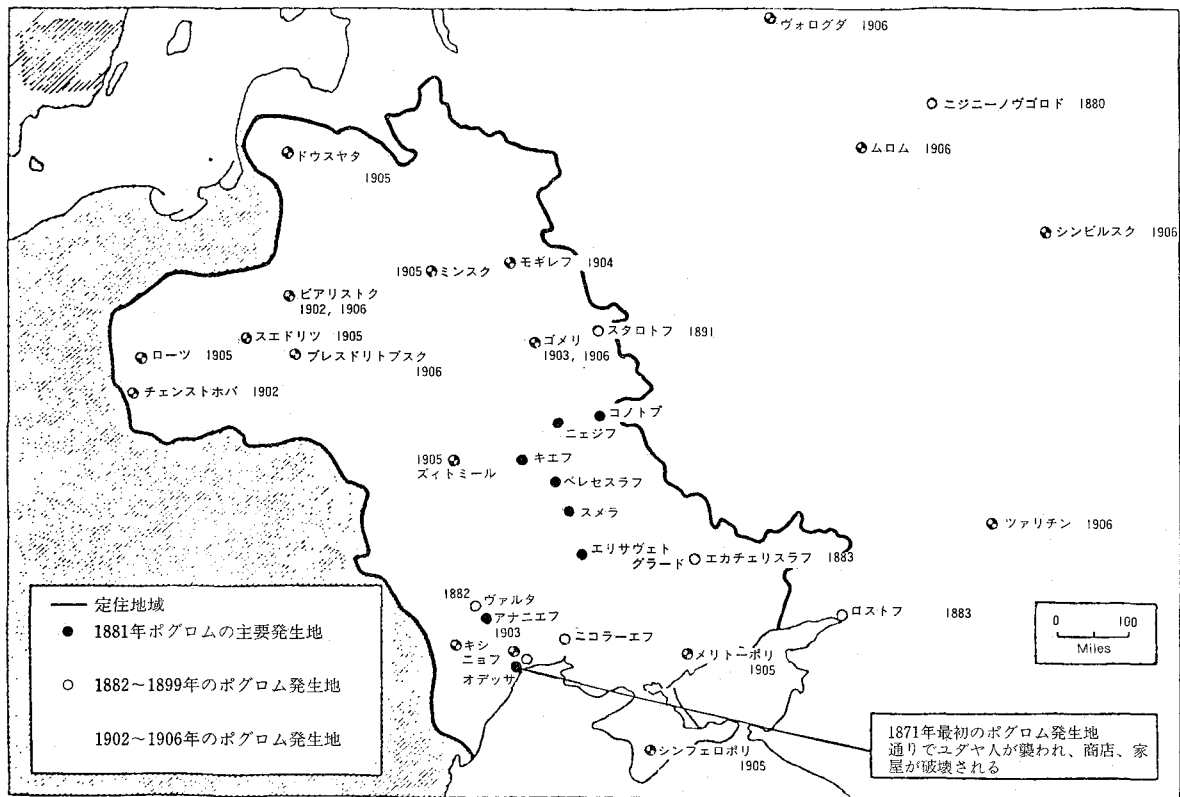
次に発生地について見ることにする。

2. 発生地

第1図は帝政期のポグロム発生地を示す。最初のポグロムは、1871年にオデッサ市で発生しているが、これはユダヤ商人とギリシア商人との対立であった。その後のポグロムはいずれも定住地域⁽³⁾内を中心に発生したことがわかる。このうち1881年のポグロムは、すべて定住地域内に発生しており、しかも南ウクライナ地方に集中している。このためユダヤ人作家は、1881年のポグロムを「南部の暴風」と呼んでいる⁽⁴⁾。郡と市に区分した場合の1881年のポグロムを地図に示したのが第2図である。これを見ると、発生地は南ウクライナ地方でもドニエプル川沿いの平野部に集中していることがわかる。ただし、ヴォロチスク・オクレトノスチ小市とジメリンカ小市は山地に位置する。しかし第3図からわかるように、これらは鉄道沿いに位置していた。他の発生地のほとんども、鉄道沿いに位置していた。したがって、鉄道によってポグロムに関する情報が互いに流れやすかったことが推察できる。

さて、これら31箇所のポグロム発生地と発生順との関係を示したものが第4図である。これを見ると、同時発生地はいずれも近接していることがわかる。発生地を発生順によって便宜上4つの地域に区分すると以下ようになる。第1グループは、ドニエプル川西のヘルソン県を中心とする地域。この地域が起点となる。第2グループは、キエフ県を中心とする地域。第3グループは、第1グループの東側のエカチェリノスラフ県とタヴリーダ県を中心とする地域。そして第4グループはキエフ県に隣接するポルタヴァ県である。第4グループでは、6、7月に発生したために、これを除いて考えると、ポグロムは、ドニエプル川西地域に始まり、北のキエフに移り、南下してドニエプル川東地域に至り、1か月後に一応終結したことになる。

ポグロム発生地を郡と市に区分すると31箇所になるが、これをさらに詳しく

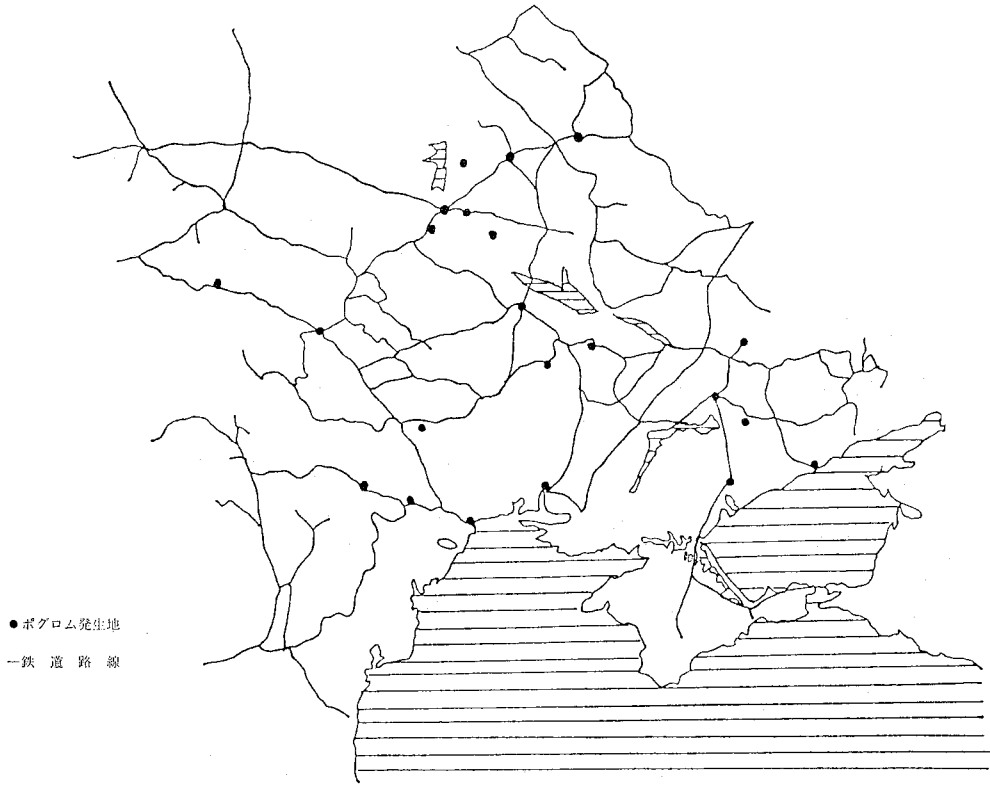


第1図 1871—1906年のポグロム発生地

Martin Gilbert, Jewish History Atlas p.75

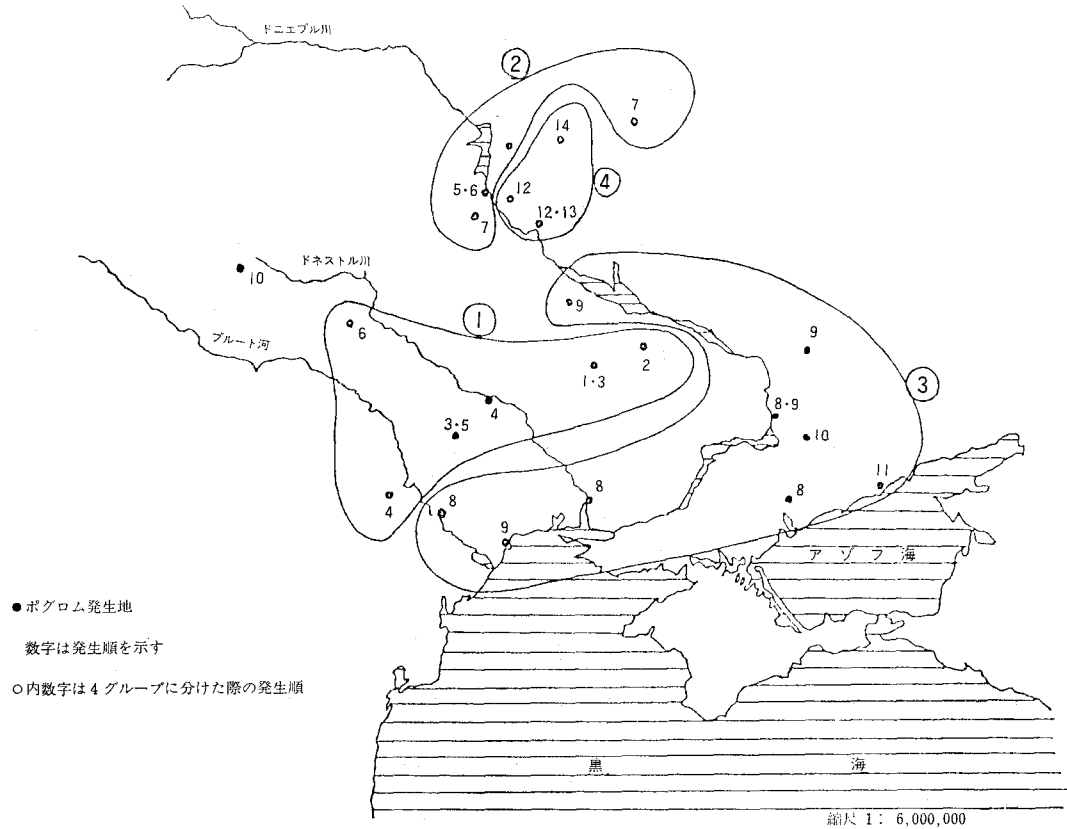


第2図 ボグロム発地生



第3図 鉄道とボグロム生地

Путеводитель и справочник по всей России, железные дороги, пароходства, почтовые тракты, СПб., 1901. 327. стр. を参照



第4図 ポグロム発生順

分類したのが第2表である。これを見ると、ポグロム発生地は212箇所であり、そのうち43.4%の92箇所が教会のある村⁽⁶⁾、31.1%の66箇所が教会のない村⁽⁶⁾であった。都市部の市と小市とは、合計しても17.5%の37箇所にすぎない。発生地は村が中心であり、74.5%を占める。

以上、発生地からわかることは、第一に、ポグロムは南ウクライナの定住地域内、それも平野部の鉄道沿いに集中的に発生していること、第二に、発生順から発生地は4グループに分類できること、第三に、都市よりも村落を中心としてポグロムは発生していることなどである。

3. 加害者

ポグロムの加害者に関しては『史料集』には調査されていない。しかし逮捕者調査によって推察することができる。第3表は、ポグロム後に逮捕された者の身分を示す。身分が判明した5,186人の逮捕者のうち、農民は半分の46.2%で2,395人であった。次が町人で23.6%、兵士⁽⁷⁾は13.5%であった。農民、町人、兵士はほとんどの箇所に見られるが、コサック、鉄道労働者、聖職者は限られた地域に見られる。すなわち、コサックはキエフ近郊の都市、鉄道労働者は鉄道駅のある箇所、聖職者は都市に見られる。

逮捕者に関する職業分析は、以下の8箇所についてなされている。

- (1) キエフ市一判明した313人のうち、雑役人夫67人、日雇42人、石工23人、大工19人、門番17人、馭者14人、土方11人、靴工10人、鍛冶工10人、農業9人、商業8人、家具師8人、漆喰工7人、錠前屋6人、ベンキ屋6人、ブリキ職5人、料理人5人、調理士4人。
- (2) ジメリンカ小市一判明した99人のうち鉄道従業84人、商業8人、農業6人、地主1人。
- (3) アナニエフ市一判明した118人のうち、農業65人、雑役人夫26人、日雇10人、職工(親方)8人、商業6人、召使1人、音楽士1人、家主1人。
- (4) アナニエフ郡一判明した321人のうち、農業162人、雑役人夫80人、職工(親方)23人、日雇17人、商業16人、召使11人、職工(徒弟)5人、写字生4人、製粉業1人、音楽士1人、家主1人。

第2表 ボグロム発生地の種類

区分 県名	市 (город)	小市 (местечко)	大村 (слобода)	教会のある村 (село)	教会のない村 (деревня)	小村 (хутор)	ユダヤ人 入植地 (колония)	鉄道駅 (станция)	荘園 (имение)	計
ベッサラビア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ボリンスク	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
エカチェリノスラフ	1	1	0	20	7	0	3	1	0	33
キエフ	2	5	4	28	34	0	0	0	0	73
ポドーリスク	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ポルタバ	3	0	0	12	0	2	0	0	0	17
タヴリーダ	1	1	0	11	2	0	0	0	1	16
ヘルソン	3	6	0	14	21	0	0	1	0	45
チェルニーゴフ	8	1	2	7	1	2	0	0	0	21
特別市 (градоначальства)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
計 (%)	22 (10.4)	15 (7.1)	6 (2.8)	92 (43.4)	66 (31.1)	4 (1.9)	3 (1.4)	3 (1.4)	1 (0.5)	212 (100.0)

Материалы., стр. 529—530 から作表

第3表 逮捕者の身分別分類

発 生 地	農 民	町 人	兵 士	コサク	鉄 道 労働者	聖職者	※計
キシニョフ市	2	16	2	0	0	0	27
ヴオロチスク・ オクレトノスチ	0	0	0	0	22	0	22
アレクサンドロフスク市	65	34	11	0	10	0	130
アレクサンドリア郡	492	2	5	0	0	0	507
パヴログラード郡	0	0	0	0	15	0	15
キエフ市	202	81	71	9	0	4	377 (379)
キエフ郡	—	—	—	—	—	—	—
スメーラ小市	179	9	15	0	0	0	233 (315)
ジメリンカ小市	72	11	14	0	(84)	1	99
ペレヤロスラフ市	12	33	6	15	0	0	67
ポリスポリ小市	3	1	1	13	0	0	18 (150)
ペレヤロスラフ郡	46	0	11	55	0	0	119 (147)
オレホフ市	102	22	0	0	0	0	124
ベルジャンスク郡	57	0	1	0	0	0	58
メリトーポリ郡	72	1	2	0	0	0	75 (91)
エリサヴェトグラード市	177	181	130	0	0	0	607
エリサヴェトグラード郡	85	5	6	0	0	0	96
ニコラーエフ市	9	28	9	0	0	0	47 (59)
チラースポリ郡	15	0	0	0	0	0	15
アレクサンドル郡	80	4	0	0	0	0	87
アメニエフ郡	124	166	40	0	0	1	337
アナニエフ市	5	92	20	0	0	0	118
ベレゾフカ小市	40	64	16	0	0	1	123
ゴルト村	26	10	3	0	0	0	42
オデッサ市	453	366	312	19	0	3	1270 (1581)
コノトプ市	50	8	8	31	0	4	128
コノトプ郡	27	57	17	46	0	0	245
計 (%)	2395 (46.2)	1224 (23.6)	700 (13.5)	188 (3.6)	131 (2.5)	14 (0.3)	5186

※ () 内数字は非判明分を加えた数になっている。また計にはその他の人数もふくまれている。

第4表 被害者の身分別分類

発 生 地	町 人	商 人	入植者	兵 士	農 民	※計
ヴオロチスク・ オクレトノスチ						(37)
アレクサンドロフスク市	39	12	0	3	0	54
アレクサンドリア郡	55	21	147	0	0	243
パヴログラード郡	5	1	0	0	0	6
キエフ市	513	157	0	85	6	808 (896)
キエフ郡	487	15	0	8	5	516 (865)
ヴァシリコフ市・郡						(30)
スメーラ小市						(800)
ジメリンカ小市	162	9	0	5	0	178
ボリスポリ小市	105	5	0	0	0	110 (112)
ペレヤロスラフ郡	9	1 (地主)	0	0	0	10 (77)
ベルジャンスク郡	26	6	1	0	0	33
メリトーポリ郡	2	1 (地主)	0	0	0	4 (8)
エリサヴェトグラード市	350	40	2	21	1	413 (1233)
エリサヴェトグラード郡	0	28	0	2	0	33 (42)
チラスポリ郡	3	2	0	0	0	5
アレクサンドル郡	6	0	0	0	0	30
オデッサ市						(417)
コノトプ市	66	21	0	1	1	90 (97)
コノトプ郡	74	1	0	2	4	81
オステル郡						(87)
計 (%)	1902 (70.4)	620 (23.0)	150 (5.6)	127 (4.7)	17 (0.6)	2701 (3885)

※ () 内数字は非判明分を加えた数になっている。合計にはその他の人数も含まれている。

Материалы., стр. 531—541 から作表

第5表 被害額別の被害者数

被害額(ルーブル) 発生箇所	被害額(ルーブル)							計
	0 ~ 100	101 ~ 500	501 ~ 1000	1001 ~ 3000	3001 ~ 5000	5001 ~ 10000	10000 ~	
アレクサンドロフスク市	7	18	5	0	9	1	4	44
キエフ郡	418	631	249	230	54	58	35	1674
キエフ市	279	282	109	115	34	44	26	889
ヴァシリコフ市・郡	2	22	2	4	0	0	0	30
ジメリンカ小市	81	54	19	0	23	1	0	178
ボリスポリ市	10	60	13	13	2	2	1	101
オレホフ市	26	35	11	0	8	6	1	87
エリサヴェトグラード市	216	421	199	203	0	101	44	1184
コノトプ市	20	45	5	14	5	2	6	97
コノトプ郡	32	24	15	7	2	1	0	81
計	1091	1592	627	586	136	216	177	4375
%	24.9	36.4	14.3	13.4	3.1	4.9	2.7	100.0

Материалы., стр. 531—541 から作表

- (5) ベレソフカ小市一判明した123人のうち、農業41人、雑役人夫43人、召使6人、職工（徒弟）5人、職工（親方）5人、商業4人、写字生2人。
- (6) ゴルタ村一判明した42人のうち、職工（親方）11人、雑役人夫10人、日雇7人、農業5人、商業4人、召使4人、写字生1人。
- (7) エリサヴェトグラード市一判明した499人のうち、雑役人夫102人、日雇87人、農業75人、職工34人、召使33人、商業10人、放蕩人6人。
- (8) アレクサンドル郡一判明した87人のうち、農業80人、職工5人、雑役人夫2人。

これら8箇所での判明分総数1,602人のうち、農業従事者が443人で27.7%、雑役人夫が330人で20.6%、職工（親方と徒弟）が167人で10.4%、日雇が146人で9.1%となる。ボグロム加害者のほとんどは、農民と町人、それも雑役人夫や職工、日雇などの下層労働者であったことがわかる。

さらに逮捕者の出身地調査が以下の3箇所においてなされている。

- (1) アレクサンドロフスク市一逮捕者65人の農民のうち、同県出身者は20人、他県出身者は45人（主な出身地は、クルスクが13人、カドシスクが5人、オルロフ4人、リャザン2人）。逮捕された34人の町人のうち、同県出身者は20人、他県出身者は14人。
- (2) エリサヴェトグラード市一逮捕された177人の農民のうち、同県出身者は72人、他県出身者は105人。逮捕された181人の町人のうち、同市出身者は69人にすぎない。
- (3) キエフ市一逮捕された202人の農民のうち、同県出身者は81人、他県出身者は121人（主な出身地は、チェルニゴフ36人、カルジスク26人、スモレンスク14人、モギレフ13人）。逮捕された81人の町人のうち、同県出身者は42人、他県出身者は39人（主な出身地は、チェルニゴフ19人、モギレフ5人、ミンスク4人）。

これらから明らかなように、都市におけるボグロム加害者の半分以上は他県出身者であった。これは、彼らがボグロム時に都市に集まったからではない。なぜなら当時鉄道は民衆によってあまり利用されていなかったからである⁽⁸⁾。彼らは地方からの出稼ぎ労働者であった。出稼ぎ労働者として都市に集中して

働いていたために、都市でのポグロム逮捕者調査の中で特に分析されたと考えられる。

逮捕者の宗教調査もいくつかの箇所で行われている。ペレヤロスラフ市とエリサヴェトグラード郡における逮捕者は、すべてキリスト教徒(ロシア正教徒)と記されている。またエリサヴェトグラード市では、逮捕者607人のうち、ロシア正教徒が562人、ユダヤ教徒38人、ルター派教徒4人、カトリック教徒2人、回教徒1人となっている。さらに興味深いことは、アレクサンドル郡とアナニエフ市における調査である。アレクサンドル郡においては、逮捕者81人のうち、ロシア正教徒が29人、古儀式派信徒⁽⁹⁾23人、無司祭派信徒⁽¹⁰⁾16人、唯一信仰派信徒⁽¹¹⁾16人、ルター派信徒3人となっている。アナニエフ市においては、逮捕者118人のうち、ロシア正教徒113人、古儀式派信徒4人、ユダヤ教徒1人となっている。ロシア正教の中でも急進的なセクトである古儀式派、無司祭派などの信徒が、加害者であったことがわかる。

以上ポグロム加害者についてわかることは、第一に加害者は身分では農民が半数を占め、町人は2割であったこと、第二に、職業では農業、雑役人夫、手工業者、日雇などが大半を占める下層労働者であり、特に都市においては、地方からの出稼ぎ労働者が半数以上を占めていたこと、第三に、彼らはロシア正教徒であり、地域によっては急進的なセクトが積極的にポグロムに参加していたこと、などである。ここで、身分では農民が半数以上を占めるが、職業として農業従事者が少ないことに気づく。これは農民の中に、出稼ぎ労働者として都市で働く者がいたことの結果だと考えられる。

4. 被害状況

ポグロム被害者と被害額についても『史料集』に地元警察の調査記録にあるため、それをもとにして分析する。第4表は、被害者の身分を示す。これは、ポグロム発生地31箇所のすべての記録ではないが、全体的状況は推察できると思う。被害者総数は3,985人、うち判明した2,701人の70.4%はユダヤ町人、23.0%はユダヤ商人であった。ユダヤ入植者はアレクサンドリア郡に、兵士は特にキエフ市に見られるが、ユダヤ農民は0.6%であり、ほとんど見られない。

ベレヤロスラフ郡とメリトーポリ郡においては、ユダヤ地主が被害にあっているが、いずれもごく少数であった。都市においても農村においても、ユダヤ町人が圧倒的に多いといえる。

被害者の職業調査は、シメリンカ小市だけになされている。そこにおいて、178人の被害のうち、商業76人、手工業62人、給仕20人、雑役人夫18人、ラビ⁽¹²⁾ 2人となっている。加害者と同様に、下層労働者がかなり見られる。

これらのユダヤ人が富裕階級に属するか下層階級に属するかは、第5表を見るとわかる。これは被害にあったユダヤ人の被害額による分類である。申し出た者だけを対象にし、しかもその被害額は実際よりも高かったことが考えられるが、以下のことがこの表からわかる。被害額が500ルーブルまでが61.3%、1,000ルーブルまでとすると75.6%となり、被害額にあったユダヤ人は、決して富裕階級ではなかった。このことはエリサヴェートグラード市のユダヤ人有力者がクタイソフ伯にあてた文書に「襲撃されたのは、ユダヤ人の最も貧しい層、職人、駁者、音楽士、雑役人夫であった」とあることからわかる。

ユダヤ人の受けた被害内容については、以下の7箇所に記載されている。

- (1) エリサヴェートグラード市—破壊された家屋418軒、商店290軒。
- (2) アレクサンドル郡—破壊された家屋6軒、商店11軒。
- (3) アナニエフ郡—破壊された家屋390軒、商店9軒。
- (4) アナニエフ市—破壊された家屋196軒。
- (5) ベレソフカ小市—破壊された家屋162軒、商店71軒。
- (6) ゴルタ村—破壊された家屋19軒、商店21軒。
- (7) ネジン郡—破壊された家屋11軒。

合計すると家屋が1,202軒、商店が402軒となり、家屋の方が商店よりも多く破壊されたことになる。また、ユダヤ人を殺害した記録は、ネジン市だけにあり、11人であった。

以上、被害状況からわかることは、第一に被害があったのはユダヤ町人が圧倒的に多く、次にユダヤ商人であったこと、しかも彼らは下層民であったこと、第二に、破壊されたのはユダヤ人家屋と商店であり、ユダヤ人殺害はほとんど見られないこと、などである。具体的にボグロム時にどのような破壊活動

がなされたかについては、個々のボグロム史料にふれて考える必要がある。

5. 趨 勢

これまで発生日、発生地、加害者、被害状況などについて分析し、ボグロムの全体的状況を考えてきたが、次にボグロムの趨勢について調べることにする。第6表は、趨勢を知る手がかりとして、被害額の時間的推移を示したものである。これを見ると、被害額は時とともに減少していることがわかる。すなわち、最初のエリサヴェトグラードのボグロムにおいては、被害額は190万ルーブルで最高であるが、その後減少しており、キエフ市、キエフ郡の被害額はたしかに多いがエリサヴェトグラード市の半分にもみたない。コノトブ市、アレクサンドリア郡においては、さらにキエフ市、キエフ郡の半分にもみたない。最初のボグロムが発生して三週間後のベルヂャンスク郡のボグロムまでのグラフは、ボグロムの規模が時とともに小さくなっていることを示している。

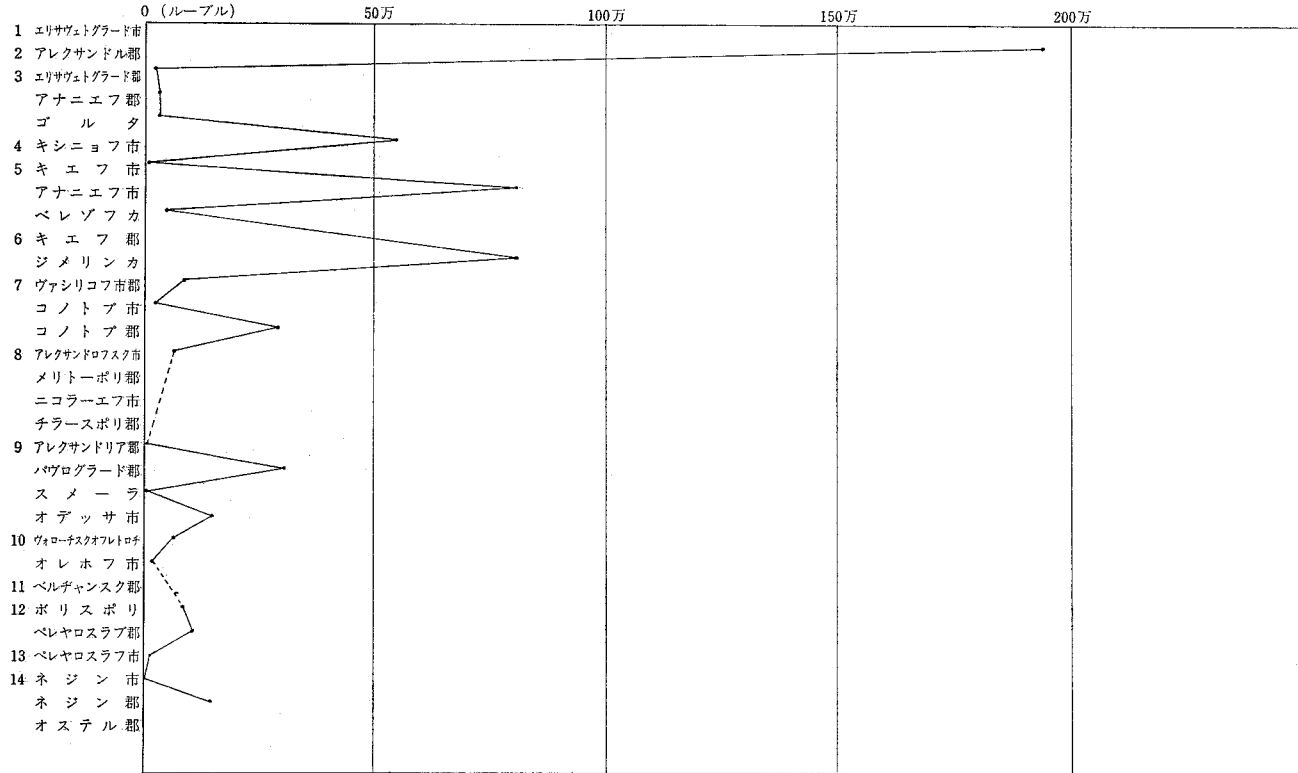
以上のように、ボグロム全体の趨勢は、時の経過とともに弱まる傾向にあったといえる。

6. 結 論

ボグロムの全体的状況をこれまでの分析によってまとめると、以下のようになる。

- 一 発生日からわかることは、アレクサンドル二世暗殺事件の1ヶ月半後の復活祭の週にボグロムは発生しており、1ヶ月でほとんど終結していること、また同じ日に発生した箇所が多く、継続期間は平均して1、2日間であったこと、などである。
- 二 発生地は、南ウクライナの定住地域内、しかも平野部、鉄道沿いに集中している。また発生順から4グループに区分できるが、全体的には都市よりも村落に多くボグロムは発生した。
- 三 ボグロム加害者は、ロシア農民と町人、それも下層労働者が多く、特に都市においては、その半数以上は地方からの出稼ぎ労働者であった。さらに地域によっては、ロシア正教の急進的セクトがボグロムに参加した。

第6表



四 被害者はユダヤ町人、商人であり、それも下層民であった。彼らは、家屋や商店を破壊されたが、ほとんどの場合殺されなかった。

五 ポグロム全体の趨勢は、時の経過とともに弱まる傾向にあった。

以上の結論によって、ポグロムの全体的状況にある程度把握することができる。しかし、発生直前の状況はどうであったのか、何をきっかけとして発生したのか、また破壊活動そのものはどのようなものであったのか、警察はそれに対してどのような態度を取ったのか、などの疑問については、個々のポグロムをさらに詳しく分析しなければわからない。そこで次に、ポグロムそのものの状況を分析する。

(註)

- (1) この史料集は1919年に初版が出され、その後1923年にそれを補うものとして第2版が出されている。ここでは第2版を使用した。以下 Материалы と略す。
- (2) ロシア語 Местечко の訳。東欧、ロシアに世紀以後発達したユダヤ人共同体のことであり、人口は2万人までを有す。
- (3) 英語では Pale Settlement。ロシア語では Черта Оседлости。日本語では定訳がなく、以下のように訳されている。「定住区域」(『近代ロシアにおけるユダヤ人およびユダヤ人問題』原暉之著)、「居住地の枠」(『ユダヤ人の歴史』ロス著、長谷川訳)、「制限地域」(『武装せる予言者トロッキー』ドイッチャー著、田中訳)、「居留境界線」(『19世紀ロシアの作家と社会』ヒングリー著、川端訳)、「居留地」(『ロシア・アナキズム全史』アヴリッチ著、野田訳)、「定住境界」(『ユダヤ民族史』エティンゲル著、石田訳)。原氏の訳が適するように思われるが、その領域が広いために、区域とするよりも地域の方が妥当だと考えられる。そこで私は「定住地域」と訳した。エカテリナ2世によって制定されたユダヤ人の居住地域のことである。1772年8月16日から1795年にかけて完成された。面積約百万平方キロメートルに及ぶこの地域は、ロシアにおけるいわばゲットーであった。
- (4) S・エティンゲル著、石田友雄訳、『ユダヤ民族史』第5巻、258頁。昭和53年、六興出版。
- (5) ロシア語 село の訳。
- (6) ロシア語 деревня の訳。
- (7) この場合、退役兵士、予備兵士、また兵士の家族も含まれる。
- (8) R・ヒングリー著、川端香男里訳、『19世紀ロシアの作家と社会』、88頁、昭和46年、平凡社。
- (9) 17世紀のニーコン宗教改革に反対したロシア正教徒の一派。後に無司祭派と司祭派とに分かれた。ロシア語では старообрядцев。

- (10) 古儀式派から分かれた一派。司祭派 (поповцевъ) よりも急進的であった。ロシア語では безпоповцевъ。
- (11) ロシア語では единовец。古儀式派の一派であるが、詳細は不明。
- (12) ヘブル語では ׀ ׀ ׀ ׀。文字通りの意味は「私の教師」。ユダヤ教師のこと。
- (13) Материалы, стр. 227。

(筆者の住所：香川県木田郡三木町池戸2704-8)